

YOROZU JOURNAL

公益財団法人 奈良県地域産業振興センター
奈良県よろず支援拠点

2016年 創刊号 (春)



創業から販路拡大まで
あらゆる経営のご相談は、
奈良県よろず支援拠点へ。

創業・起業サポート事例

クライミングジム・ノポリコ/下市木工舎「市」/ASUCOME

老舗企業の事業革新サポート事例

近畿編針株式会社/シバタ製針株式会社

近鉄奈良駅前にサテライトオフィスOPEN(4月末)

あなたの情熱を徹底サポートするプロ集団——よろず支援拠点

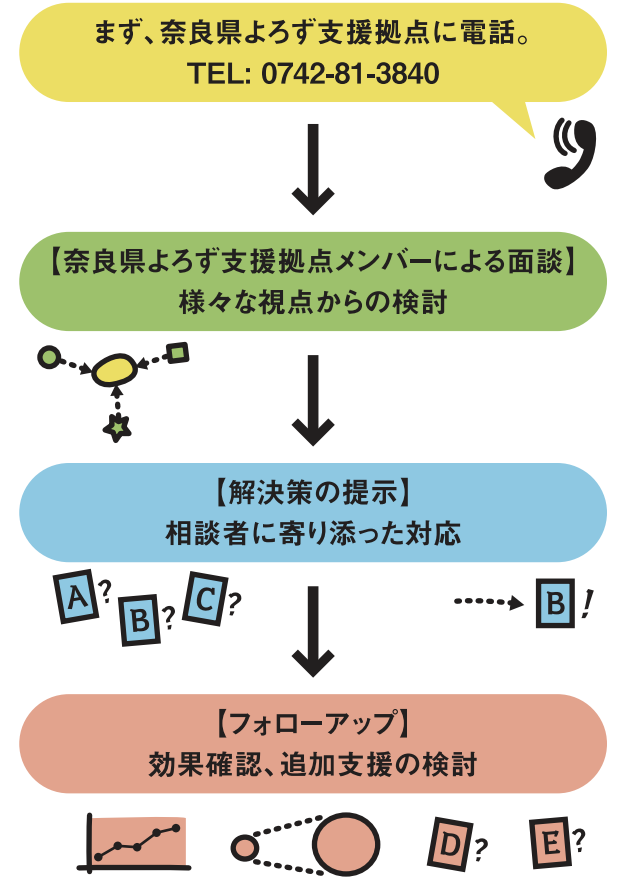
1社でも多くの会社に儲けてもらうことが、我々の役割。問題点がはっきりしないと相談に行く場所も決まらないですよね。そこで、まずは私たちをとっかかりにしてください。国や県の支援関連の情報がたくさんあります。“よろずになったら得するね”と言われる場所になるようにがんばります。(松村CCO)



後列左から、
守口CO
酒井CO
松本事務スタッフ
清水CO
中井CO
橋本CO

前列左から、
土本CO
松村CCO
中川CO
松浪CO

* CCO: チーフコーディネーター
* CO: コーディネーター



様々な相談内容に対応します

よろず支援拠点とは

「よろず支援拠点」は、国が全国に設置する経営相談所です。独立行政法人中小企業基盤整備機構が「よろず支援拠点全国本部」として、各よろず支援拠点をバックアップしています。2014年6月に全都道府県に1ヶ所ずつ設置された、よろず支援拠点は

- 販売拡大につながる経営相談に応えること
- すべての中小企業・小規模事業者の経営課題に応えること
- 地域活性化のハブとなること

をミッションとして、相談内容に応じたチームを組み、総合的なアドバイスで支援を行っています。

奈良の拠点では、「一緒に儲けましょう!」をキャッチフレーズに、メーカー出身で会社経営を経験してきた松村チーフコーディネーターを中心に、金融・IT・ものづくり・労務・マーケティングなどに特化したコーディネーターでチームを組み、親身に、相談者に寄り添ってサポートし続ける体制をとっています。

あなたとともに二人三脚で進みます

経営の考え方や状況は100社あれば100通り。同じ業界でも置かれている環境が全く違う場合が多いため、求められる答えは1つではありません。いかに、事業に対して熱い想いや強い意志を込めてやりぬくかが重要です。そうした情熱のある経営者を全力でサポートしているのが「奈良県よろず支援拠点」なのです。

丁寧なヒアリング、圧倒的なサポート体制

①まず自身の立ち位置をはっきり確認するべく、M(ミッション:何の為に) V(ビジョン:何を指す) P(パッション:やりとげる想い)を強化。真のセールスポイントや、現場の無理・無駄・ムラの洗い出しなど、課題にひそむ**根本的な原因をコーディネーターと共に見つけていきます。**

②課題と原因が明らかになると、会社の持つ独自の強みと良さがブラッシュアップでき、これが次の支援のポイントとなり、**総合的・先進的なアドバイス**へとつながります。

さらに、支援機関、公的機関や専門機関(公設試験研究機関、大学、中小企業診断士会など)と**チーム編成**を行い、相談内容に応じて、金融機関や商工会議所、商工会などの認定支援機関とも連携。様々な角度から問題解決へと**ワンストップサービス**を進めることができます。

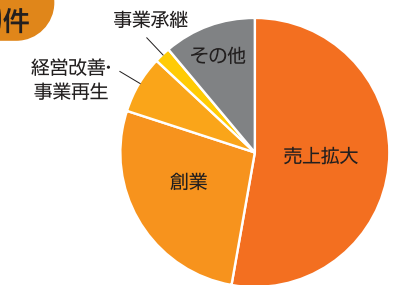
経営の気づきや出会いの場として

特に悩みはないという事業者に向けてもイベントやセミナーの情報発信をしています。それは、そこで**気づきの機会や出会い**がたくさんあるから。イベントやセミナー後には交流会や個別相談も充実。また、通常相談窓口とは別に、中南和地区では定期的に出張相談会も開催し、広い範囲で気軽に相談ができる体制も喜ばれています。

経営者の様々な悩みに真摯に向き合い、奈良に優良企業を増やすため、「奈良県よろず支援拠点」は皆さまをお待ちしています。

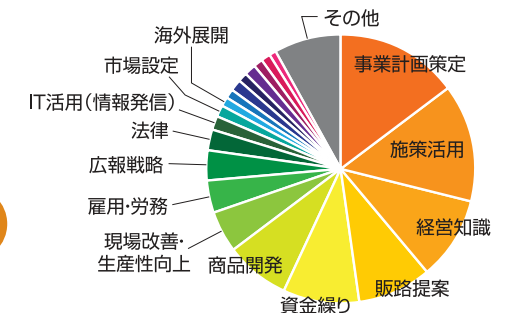
拠点設置～2016年2月
相談件数累計 **4300件**

相談内容別の内訳

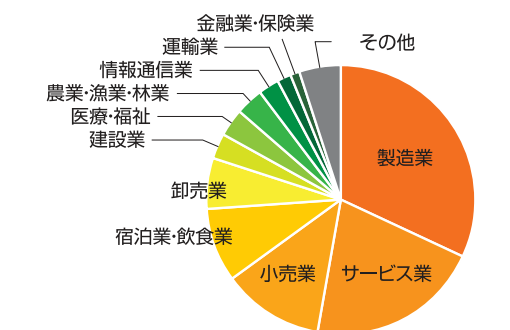


相談内容の具体的な内訳

相談は多岐に亘ります!



相談事業者の業種別の内訳



創業・起業サポート事例

クライミングジム・ノボリコ 奈良のボルダリング愛好者の拡大をはかる

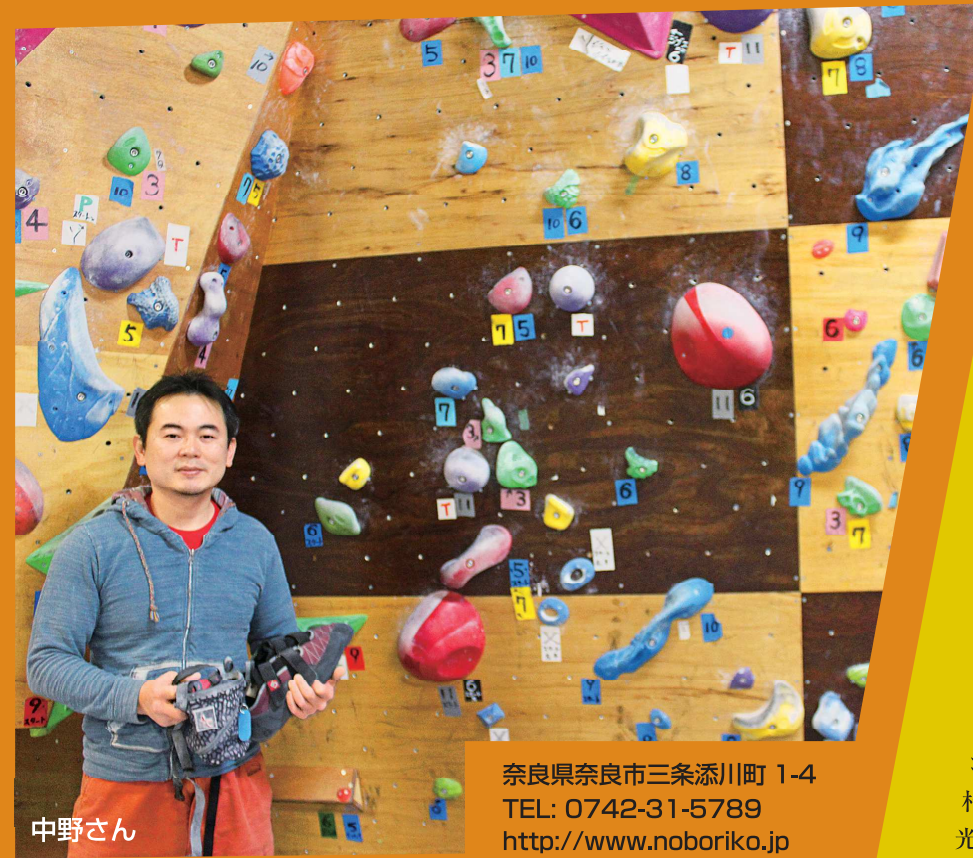
(1) 現状 奈良市では初めてとなるクライミングジム「ノボリコ」がオープンしたのは2015年9月。壁一面には、色とりどりの小宇宙が広がる。石の色と番号を頼りに素手で登っていくボルダリングは、ロープも不要で自分のペースで気軽に楽しめる、いま老若男女に人気のスポーツだ。

(2) 経緯 中野さんは幼いころから、野球、軟式テニス、空手、スノーボード、スキューバダイビングなどたくさんのスポーツを経験してきた。30歳のときに繁忙な職場に配属されてからは、残業のため終電での帰宅や徹夜勤務の日々を送った。体力の低下を感じ始め、6年後に残業が比較的少ない職場に異動となったのを機に、新たなスポーツを始めてみた。その時たまたま雑誌で目にしたのが、近所のクライミングジムの情報。再び繁忙な職場に異動となり、仕事が一段落したときに、身体を動かす楽しさを仕事にしたいと、自らクライミングジムをオープンすることを決意。職務経験上、大阪の起業サポート制度について詳しく中野さんは「奈良にも同じようなサポートがあるはずだ」と考え、自ら調べて奈良県よろず支援拠点に行き当たった。

(3) 取組 事業を立ち上げるという感覚は職員時代に体験してきたが、実際に創業者となるのは初めての経験。開業や事業計画の骨子をよろず支援拠点に持ち込むと、客観的なアドバイスのもとでブラッシュアップできたうえ、日本政策金融公庫への融資申込みもスムーズにつながった。ほぼ希望通りの融資が決定し、思い描いていたような店舗をオープンさせることができた。

(4) 今後 「奈良の中心地という土地柄をいかして、夜に楽しめるスポットとして観光客にも立ち寄ってもらえたら」と、開業後もよろず支援拠点と密にタイアップしながら、奈良に新たな風を吹き込みたい考えた。

担当者の声 相談を受けた時に、ボルダリングという新しいスポーツを広めるため創業をしたという考え方に共鳴した。まずは、資金調達を必要とした案件であり、いかに店舗をPRして顧客を集めるかがポイントであると考えた。事業計画書がしっかりしていたため資金はスムーズに調達でき、現在はメディアを利用した店舗PRを中心に支援している。(土本 CO)



中野さん

奈良県奈良市三条添川町 1-4
TEL: 0742-31-5789
<http://www.noboriko.jp>

下市木工舎「市」 地域おこし協力隊として移住、吉野杉の木工家具工房を創業

(1) 現状 質の高い吉野杉を用い、鉋（かんな）で仕上げて家具を作っている、「下市木工舎〈市 ichi〉」の工房長、森 幸太郎さん。
(2) 課題 吉野杉の産地である吉野郡下市町に現在の工房を構えるまでに、木工芸家のもとで3年半修行し、杉がもつ性質の活かし方も研究し、独立開業にあたって制作技術的にはほぼ問題はなかった。一方で、一から工房をつくり自らがオーナーとなるためには、経営という側面が課題となった。「職人畑だったので、経理的なことや、どんな創業形態がよいのかなど、予備知識は全くありませんでした」。
(3) 取組 その時、森さんと出会った奈良県よろず支援拠点のコーディネーターは、様々なアドバイスや初めてでも分かりやすい資料を適材適所に提供。森さんは創業の準備を効率よく進めることができ、順調に「下市木工舎〈市〉」のオープンが実現した。

地域の伝統特産品である吉野杉は、家具づくりには色味や強度の点で不向きとされてきた。しかし、森さんは杉の柔らかな手触りと、鉋ならではの質感にこだわり「吉野杉×鉋仕上げによる家具づくり」という新たな可能性を切り拓き、地域文化の振興や技術の発展に大いに貢献することとなった。

(4) 今後 開業に向け助言された計数管理や資金計画の考え方の基礎知識は、森さんにとって、今後の経営判断に使用できる数的基準としても利用できる。当初描いていた以上に、地域振興の役として期待される形での開業を実現できたが、その後もよろず支援拠点とは連絡をとりながら、森さんは更なる夢に向けて歩んでいる。

担当者の声 まずは相談者の現状把握に努め、支援活動の優先順位を決めた上で情報提供を行った。創業予定までの期間が短かったため、準備を効率的に進められるように、できるだけ負荷のかからない方法を提案した。また、奈良県の南部東部地域の振興につながる事例だったため、自治体などの連絡・連携も密に行なったことが地域に溶け込むきっかけとなった。(橋本 CO)



森さん

奈良県吉野郡下市町阿知賀 61 TEL: 0747-68-9118 <http://ichi-shimoichi.com>



奈良県高市郡明日香村岡 410
TEL: 0744-54-3455
<http://asucome.asukamura.jp>

ASUCOME 日本国はじまりの地・明日香村の地域に根ざした創業支援

(1) 現状 明日香村内での創業支援や観光産業の活性化の一環として始まった、チャレンジショップ「ASUCOME（あすかむ）」。万葉文化館に隣接するという立地もあって、2014年4月のオープン以来、村内外からたくさんの人が訪れ、リピーターも絶えない。飲食店や物販店など、将来明日香村でお店を開きたいという人にとっては、実際に店舗経営を体験し独立に向けてノウハウやスキルを低予算で磨くことのできる、またとない環境だ。

全5店までの小さな施設だが、すでに卒業生も生まれ、現在は1期生と2期生が混在。開店間もないオーナーにとっては共に明日香村を盛り上げていく同志として先輩オーナーがいるのはとても刺激的で、個人の夢が地域活性につながる。

(2) 経緯 明日香村と奈良県よろず支援拠点との連携が始まったのは2015年から。村が、各店舗のオーナーに事業計画書作成を指導するにあたって、よろず支援拠点からのアドバイスを受けるようになった。ASUCOME で出店できるのは最長で原則2年間だが、その間に店舗オーナーから相談があれば、よろず支援拠点が独立開業に役立つ各種情報を提供し、明日香村と共同でオーナーたちをサポートしている。

(3) 取組 2016年3月現在、ASUCOME に入居するのは、《げんきな果実工房》《アシェットM》《飛鳥かふえ日いづる》《raku》《飛鳥おもいで堂》の5店舗。集客やコスト面で有利なASUCOME 店舗は、初めて店舗運営を経験する人にはとても魅力的。「やりたいと思っていたことをまず小さく始められるのが特長です。集客や賃料といった面でも恵まれています。オーナーとして頑張りながらも一緒に歩める仲間がいるという安心感が違います」(明日香村役場企画政策課・米川さん)。

(4) 今後 卒業後も、村とはもちろん、よろず支援拠点との連携は維持される。実店舗ともなれば運営責任は大きくなるが、独りになりがちなおオーナーにとって相談できる相手がいるというのは非常に心強いという。ASUCOME を卒業したオーナーたちは実際の店舗を持つなど、《飛鳥カーキカフェ》《ヒコナ鍼灸院・ヒーリングサロン》、そして《マダム・ビー》(委託販売)が明日香村内で元気に活躍中だ。村としても店舗開業をしやすくするために空き家活用の制度の整備も進めていて、日本各地からの観光客や外国人でにぎわう明日香村は、自ら創業したい人には好条件が揃ってきている。

担当者の声 ASUCOME 入居店舗さまごとに様々な課題があったが、各オーナーさまの強みをさらに活かせるように支援のポイントとしたのは、商品の魅せ方、メニューの見直し、POPの作成方法などで、主にマーケティングに関するアドバイスを行った。その結果、集客にプラスになったとのお声をいただいた。(清水 CO)



(左から) 乾さん 光井さん 西川さん 山本さん 南さん 園田さん

老舗企業の事業革新サポート事例

近畿編針株式会社

グローバル企業として認知度向上を目指し
CI活動を推進

(1) 経緯 同社は海外での販売が多くを占めていることから、奈良県発明協会に海外商標登録の相談をしていた。創業100周年を迎えるにあたり、社名変更や会社ロゴマークの見直しなどのコーポレート・アイデンティティ (CI) に取り組みたいと同協会に話したところ奈良県よろず支援拠点を紹介され、アドバイスがスタートした。

(2) 課題 CI活動を行うにあたって、「複数の商品ブランドがあり、マークデザインが統一できていないこと」、「海外での販売では、社名の『キンキ』の意味が良くない印象を与えること」の2点が課題となった。

(3) 取組 北欧での知名度が高く、国内メディアでも取り上げられたこともあり、社名変更が市場に与える影響を考えると「近畿編針」という社名は変えず、商品ブランドを確立し、ロゴマークを変更することで「キンキ」の印象を払拭していく方向となった。よろず支援拠点の担当者は、企業としてのストーリーの明確化から、発明協会との連携により国内外における商標登録のための補助金の申請時期の調整、各作業スケジュール管理にわたるまでキメ細かなアドバイスをしながら進めた。

よろず支援拠点で紹介したデザイナーとともに、商品イメージ作りとロゴマークの作製が進んだ。イメージ作りにおいては社内で会議を重ね、「社員の会社に対する想いも改めて知ることができ、100周年の節目に会社の方向性を考える上で重要な意味をもつことができた」と、尾山常務取締役は語る。また、手編み業界のイメージを「おしゃれ」で「センスの良い」ものになればと考えており、絵画をモチーフにしたカラフルな「Opal」の毛糸をドイツから輸入販売する。社内のショールームも一新し、ゆっくり商品を見て選べ、ワークショップなどで触ってもらえる心地よい空間を目指す。

(4) 感想 「よろず支援拠点はとても相談しやすく、アドバイスも的確で射っており、専門家との連携もスムーズ。さらに、専門家との打ち合わせが進んでいく中でも、会議にも参加していただけるなどサポートもしっかりしている。設備の入れ換えや製造ラインの改善についての相談など今後も継続してつながってほしい」(尾山常務)と考えている。

担当者の声 同社が持っている課題とストロングポイントを洗い出し、社内で CI の目的や意義について議論を重ねることで、今回の活動で実施すべきことを明確化し共有化することに留意した。また、品質と生産性の更なる向上を目指す同社にとって、今回の活動がプロセス改善の新たな取り組みに着手するきっかけとなった。(守口 CO)



尾山常務



奈良県生駒市高山町 4368 番地
TEL: 0743-78-1108
<http://www.amibari.jp>

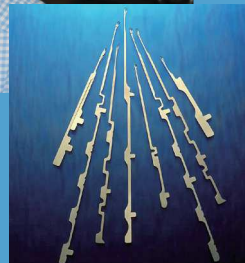
シバタ製針株式会社

現場改善と製造原価削減により
経営効率を大幅アップ



柴田社長

奈良県葛城市南道穂 137
TEL: 0745-69-2281
<http://www.shibata.nu/jp>



(1) 経緯 創業から約90年、海外でも名の通ったブランド力があっても払拭できなかった工場内部の工程ロス。ある中小企業相談の窓口で相談に行こうとしていた矢先、奈良県よろず支援拠点のチーフコーディネーターの訪問を受けた。

(2) 課題 柴田社長から問題点をヒアリングし、よろず支援拠点では包括的な課題を整理するため、メーカーでものづくりを中心に現場改善、製造原価革新の実績が豊富なコーディネーターが担当した。一番重要な現状把握は、決算書、製造原価報告書、生産実績報告書、現場管理などの帳票など、各帳簿類の分析。これに加えて、コーディネーターが直接現場に入り、ボトルネック (作業効率が悪い箇所) を重点的に調査し、すべてを数値化分析することにより課題を明確にした。

(3) 取組 次に、改善へ向けて3つの大きな取組みを打ち出し、よろず支援拠点のコーディネーター主導で優先順位を定めた。

- ①53工程の生産リードタイム (受注から納品までの期間) を決めて納期遅れを改善
- ②納期遅れをカバーするために各工程で在庫を確保してきたが、各工程で工程在庫を削減
- ③常態化していた残業を削減、定時退社を徹底

実施にあたっては、営業面のチャンスロスを心配する声もあったが、よろず支援拠点作成のエビデンス (証拠・検証資料) を示しながら納得してもらった。また、定時退社については、従業員からは一部不満の声も上がったが、利益が上がれば還元できることを約束し、人員の削減をすることなく作業時間の見直しをした。

(4) 感想 柴田社長は「頭では無駄なものを作らないとは理解できていたが、営業や売上のことを考えると踏み切れなかった。経営には外部の人の目が必要だ。よろず支援拠点との出会いで、経営の改善において、優先順位を確認し期限を切って問題に取り組むことができた」という。実際に、工程在庫は前期比で半減、確実にロス削減。よろず支援拠点との課題共有により、短期間で端的な経営改善が完了した。

担当者の声 支援者が意識すべき点は、相談者の最も求めている事を正しく聞き取り、そして課題認識と目標設定の共有化を図ることだと考える。推進においては現場、現物、事実に基づき、科学的分析そして数値化、見える化などによりブレのない施策を共に導くことだと思う。特に今回の成功ポイントは、事業に直結した経営課題改善を最優先テーマとして一体推進が実現出来た点にあると考える。(中川 CO)

奈良県よろず支援拠点 Facebook ページをチェック!

随時更新!



奈良県よろず支援拠点さんが写真2件を追加しました。
昨日 13:41

奈良県よろず支援拠点の清水です。支援先の Bijoux kei 様が、オンラインショップを開店されました。代表者の吉川様の取っつきやすさ、丁寧な接客が中心で出逢うたびに大満足で、一般のお客様からも購入の依頼があるなど人気のある商品です。「自然を磨く」「自然を身に纏う」のキャッチコピーとあり、代表者の吉川様が磨きあげた天然の黒曜石・鉱石を自然のデザインで仕上げた逸品です。皆様も自然を磨(ま)とつジュエリーです。... もっと見る



本誌で紹介したものは、多数のサポート事例のうち、ほんの一例です。

奈良県よろず支援拠点の Facebook ページはセミナーやイベント開催など役立つ旬の情報を更新しています。是非チェックしてみてください!

【チェック方法】

◆ [奈良県よろず支援拠点 facebook](#) 検索

◆ 下の QR コードから読み取り (スマートフォンのみ):

